Ⅳ　地域貢献活動

静岡市支援センター　なごやか　（静岡市指定管理者業務）

1　平成29年度の振り返りと動向

(1) 地域活動支援センター事業

①生活技術再獲得にむけて

日常生活における基本的技術の向上を図るための活動を、利用者様の声を聞きながら計画し実施する。

②障害の理解を進める活動の取り組み

施設で実施するプログラムやサークルは、利用者様自身が現在の障害を理解し、生活のしづらさを改善して、元気回復に繋がることを目的としている。

③個別支援の強化

本人を取り巻く背景を理解し、利用者様自身の地域生活や、就労生活等で現れてくる状況を受け止め、その改善を目指して利用者様と相談しながら利用者様自身が希望している生活が出来るように支援の強化を図る。

（評価）

上記方針の3点は前年度に続き、今年度も目標として取り組んだ。個別支援では利用者様を中心とした関わりを重視し、プログラム活動の展開においても、興味、意欲を喚起できるような内容のなかに、生活技術の獲得や本人らしい、よりよい生活を見据えた働きかけを行っている。

参加者数の多かったプログラムは、皆で合唱・カラオケを行う「みんなで歌おう」、日常生活スキルを学ぶ「やってみよう」、語りの場を提供する「ピアタイム」、「WRAP（ラップ）」（WELLNESS RECOVERY ACTION PLAN＝元気回復行動プラン）作成の機会といったところが挙げられる。これらのことから、集う、語る、学ぶ、表現する、自他を理解するといった機会が多くの利用者様の求めているものであることが伺えた。また、日々の関わりや相談支援等から利用者様の理解に努め、目標や課題を確認しながら希望する生活の実現に向けて関わっていく姿勢は今まで通り重要視した点である。

なごやかの利用者様、就労している方達への関わりは徐々に増加している。「WRAP」では、自分の症状理解や対処法について行った。必要に応じてSST（SOCIAL SKILL TRAINING＝社会生活技能訓練）も行っている。定期的に参加している利用者様は準備から積極的に参加し、初めて参加する人のことも気にかける様子も多く見られた。今後も利用者様の自信に繋がる活動をしていきたい。

(2) 一般相談支援事業

①地域会議、支援会議への積極的参加

地域会議には2名体制で積極的に参加して発言を行った。三障害の会議で事例を出す事により理解が得られるよう、また関係機関と同行訪問などを行い、支援ケースについてもケース会議だけで無く現場にて理解してもらうことで機関の観点での支援もしていただいた。

②ピアカウンセリングの取り組み

ピアスタッフとしての関わりも出てきており、相談対応、普段の声掛け、座談の開催等、関わりに広がりをみせてきている。

③地域移行支援事業の強化

いわゆる退院促進事業である。病院関係者からの聴き取りや本人との調整等、入院ケースでの信頼関係を構築し、本人の自主性を尊重し地域への関心を引き出せた。

(評価)

自立支援協議会に向けて葵区の委託相談支援事業所と計画相談の部会の必要性を課題としてあげた。事務局会議や市連絡調整会議や包括ケア会議に参加することにより、顔の見える関係が構築できている。

また、利用者様のニーズに合ったサービスが提供できるように、ピアスタッフも含めて評価をし、信頼関係を深め、関係機関との会議などに参加した。ピアスタッフの動きとして、ワーキングピアを始めとした座談会を開催し、共通の経験を持つ仲間が集まる座談会を開催することで、情報共有、共感、明日への意欲につながる機会を提供した。また、こころのバリアフリープロモーターフォローアップでは自身の経験を通して市民と精神保健福祉の理解、啓発、活動を広める機会を模索している。

地域移行支援事業では、入院治療の段階から働きかけて、退院から地域移行、地域定着へと展開してゆく事業であるが、『入院から地域へ』という言葉通りになるには、それなりの関わりの経過が必要となる。地域移行支援部会ワーキンググループでは関係機関と協力して課題解決に向けて取り組んでいる。個別支援では利用者様の信頼を得ながら、病院担当者と連携し、地活事業を利用して地域に繋げていきたい。

2 平成30年度 目標

(1) 地域活動支援センター事業

生活技術再獲得や障害の理解を進める活動の取り組みとして、「やってみよう」では、利用者様の日常生活上の疑問を取り上げ、皆で確認・共有する機会となっている。季節に合わせたテーマ（例えば、季節の変わり目に衣替え、風邪対策、梅雨対策、夏バテ対策、年末年始のポイント等）を取り上げ、利用者様の生活がより豊かなものとなるように、また自分の生活を見直す機会となるよう今年度の活動目標の一つとしたい。「手芸」でも、長年参加してくれていたボランティア講師の方々が抜けて、1年が経ち、利用者様の主体性が試される今後となる。

スタッフは、この1年間利用者様の「やりたいこと、やってみたいこと」を中心に内容を

共に考え、一緒に活動をしてきた。自分がやりたいことを、大変だけれども努力して達成することができた利用者様には、「こんな方法があったのか」、「自分でもできるのか」等、自分がやらなければわからなかったことに気付き、創作活動だけに留まらず、人としても成長することがあるのだ（自己肯定感を高め、自信を持つ）と感じてもらいたい。これこそが生活技術を集団の中で学びながら獲得していく事に繋がるので、事業全体の目標として継続していく。

(2) 一般相談支援事業

クリニックや就労移行支援事業所との連絡も増加し、なごやか通所に繋がる人もいる。今後も関係機関との連携を大切にしていきたい。

日々の関わりや相談支援等から利用者様の理解に努め、目標や課題を確認しながら希望する生活の実現に向けて関わっていく姿勢は今まで通り重要視していく。

なごやかに来所する頻度の少ない利用者様、就労している方達への関わりは徐々に増加している。来所者数、活動参加者数という数字では表れにくい部分ではあるが、皆の就労が継続していること、活き活きと働くことができている様子を見るとその必要性は強く感じられる。

利用者様の中で就労したい方は多いため、就労支援の強化をしていく。また、仕事と生活とのバランスで不安定になる利用者様もいるため、就労している利用者様には定着支援も行っていく。

利用者様自身の高齢化率も上がっているため、利用者様自身や利用者様の家族状況においても、能力的、経済的、環境的な変化へも対応できるよう準備をしていきたい。

＜両事業を通じて＞

なごやかには重度の統合失調症の利用者様もおり、会話が思うようにいかないことがある。利用者様自身が表現しにくい、感じにくい生活のしづらさの部分へも時間をかけて焦点を当ててきた。

その中で見えてきた利用者様の課題に、関係機関とも連携をとりながら関わっている。関わりの中で、本当に必要なものとは何かを探っていくことは、利用者様自身が安心して豊かにこれからの生活を送るためには欠かせないことである。

日々の活動の中でどれだけ利用者様と関わる時間を作れるか、声を拾えるかで、利用者様との関係は大きく異なってくる。時に利用者同士の輪に入りながら、利用者様が感じた「課題」をどのように乗り越えていくのか、また、次の３点に重点をおいて考えていきたい。

・高齢化に伴う関わりや包括支援センターとの連携強化
・３支援センター連携強化
・静岡市全体で対象者を支えていくこと

平成 29 年度　静岡市支援センターなごやか管理業務事業実績（統計数値）

（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

1　施設の登録者・利用実績

月別		開所日数	登録者数	登録利用者数	体験利用者数	その他利用者数	延利用者数	各月利用者数	見学者数	来所者数	1日平均利用者数
4月	平成28年度	25	3	709	25	12	746	－	0	746	29.8
	平成29年度	**24**	**0**	**475**	**35**	**2**	**512**	**91**	**1**	**513**	**21.3**
5月	平成28年度	23	1	631	19	8	658	－	6	664	28.6
	平成29年度	**24**	**4**	**525**	**21**	**7**	**553**	**87**	**6**	**559**	**23.0**
6月	平成28年度	26	0	707	32	10	749	－	3	752	28.8
	平成29年度	**26**	**0**	**549**	**37**	**10**	**596**	**91**	**11**	**607**	**22.9**
7月	平成28年度	25	1	643	57	6	706	－	2	708	28.2
	平成29年度	**25**	**1**	**491**	**52**	**4**	**547**	**88**	**7**	**554**	**21.9**
8月	平成28年度	26	1	723	40	11	774	－	4	778	29.8
	平成29年度	**26**	**2**	**538**	**32**	**8**	**578**	**88**	**3**	**581**	**22.2**
9月	平成28年度	24	2	651	30	7	688	－	3	691	28.7
	平成29年度	**24**	**3**	**524**	**34**	**4**	**562**	**83**	**2.0**	**564**	**23.4**
10月	平成28年度	25	3	692	22	10	724	－	4	728	29.0
	平成29年度	**25**	**3**	**575**	**105**	**6**	**595**	**89**	**5**	**600**	**23.8**
11月	平成28年度	24	0	598	10	24	632	－	1	633	26.3
	平成29年度	**24**	**1**	**504**	**95**	**10**	**526**	**82**	**3**	**529**	**21.9**
12月	平成28年度	23	0	533	17	13	563	－	0	563	24.5
	平成29年度	**22**	**0**	**504**	**16**	**4**	**524**	**74**	**1**	**525**	**23.8**
1月	平成28年度	24	2	561	4	11	576	－	4	580	24.0
	平成29年度	**23**	**3**	**481**	**10**	**9**	**500**	**77**	**4**	**504**	**21.7**
2月	平成28年度	23	0	492	23	7	522	－	9	531	22.7
	平成29年度	**505**	**0**	**518**	**8**	**9**	**535**	**83**	**1**	**536**	**1.1**
3月	平成28年度	26	1	547	33	2	582	－	4	586	22.4
	平成29年度	**748**	**17**	**584**	**445**	**6**	**605**	**89**	**2**	**609**	**0.8**
計	平成28年度	294	14	7,487	312	121	7,920	－	40	7,960	26.9
	平成29年度	**292**	**34**	**6,268**	**890**	**79**	**6,633**	**84**	**46**	**6,681**	**22.7**

2　支援実績（延べ人数）

月別		相談支援	設備サービス	憩いの場	サークル活動	主催事業	地域交流	団体利用	親の会活動の支援
4月	平成28年度	452	103	734	163	145	0	40	22
	平成29年度	**571**	**80**	**510**	**112**	**107**	**0**	**31**	**12**
5月	平成28年度	461	97	650	159	101	0	30	15
	平成29年度	**556**	**59**	**546**	**124**	**114**	**0**	**40**	**19**
6月	平成28年度	570	97	739	165	163	33	25	11
	平成29年度	**677**	**80**	**586**	**142**	**108**	**0**	**41**	**11**
7月	平成28年度	548	127	700	152	119	0	25	22
	平成29年度	**651**	**72**	**543**	**132**	**108**	**0**	**19**	**8**
8月	平成28年度	576	121	763	154	165	26	31	15
	平成29年度	**615**	**111**	**570**	**144**	**88**	**0**	**32**	**10**
9月	平成28年度	517	129	681	182	143	0	25	11
	平成29年度	**24**	**107**	**588**	**105**	**130**	**0**	**37**	**22**
10月	平成28年度	566	126	714	171	132	0	32	17
	平成29年度	**589**	**106**	**589**	**135**	**99**	**0**	**39**	**18**
11月	平成28年度	513	69	608	105	115	34	34	12
	平成29年度	**523**	**60**	**516**	**100**	**98**	**565**	**41**	**33**
12月	平成28年度	453	56	550	95	164	0	29	18
	平成29年度	**534**	**61**	**520**	**80**	**77**	**0**	**29**	**6**
1月	平成28年度	522	79	565	78	171	28	18	6
	平成29年度	**520**	**76**	**561**	**4**	**11**	**576**	**27**	**9**
2月	平成28年度	484	80	515	101	127	15	32	4
	平成29年度	**580**	**82**	**526**	**78**	**7**	**522**	**27**	**6**
3月	平成28年度	505	57	580	116	123	10	28	20
	平成29年度	**722**	**1**	**599**	**123**	**144**	**0**	**36**	**20**
計	平成28年度	6,167	1,141	7,799	1,641	1,668	146	349	173
	平成29年度	**6,562**	**895**	**6,654**	**1,279**	**1,091**	**1,663**	**399**	**174**

3　各事業の支援内容とその方法

①地域活動支援センターにおける相談支援事業

支援内容／方法		来談		電話		訪問		同行		メール	ケア会議		関係機関		計	
① 福祉サービス利用	平成28年度	593	41	646	60	4		13		0	15		176	1	1,447	102
	平成29年度	640	54	1,250	115	27		25		0	21		253	5	2,216	174
② 障害病状理解	平成28年度	99	20	40	8	4		2		0	2		26		173	28
	平成29年度	104	23	97	7	7		1		0	11		47		267	30
③ 健康・医療	平成28年度	284	15	384	36	2		3		0	6		35		715	51
	平成29年度	286	22	531	62	2		13		0	19	0	74		925	84
④ 不安解消情緒不安	平成28年度	308	12	630	63	1		1		0	1		2		943	54
	平成29年度	385	35	1,134	106	5		0		0	0	0	6		1,530	141
⑤ 保育・教育	平成28年度	6		3		0		1		0	0		0		10	0
	平成29年度	3		0		0		0		0	0		0		3	0
⑥ 家族人間関係	平成28年度	398	19	300	44	6		0		0	0		11		715	63
	平成29年度	245	11	294	29	0		0		0	2		63		604	40
⑦ 家計・経済	平成28年度	78	4	11		0		1		0	1		6		97	4
	平成29年度	57	3	12		3		4		0	0		3		79	3
⑧ 生活技術	平成28年度	278	19	128	21	9	1	4		0	1		12		432	41
	平成29年度	202	7	145	30	22		3		0	0		18		390	37
⑨ 就労関連	平成28年度	351	39	347	74	3		9		0	4		46		760	113
	平成29年度	233	41	271	30	6		4		0	9		42		565	71
⑩ 社会参加関連	平成28年度	643	103	177	29	0		1	1	0	1		5		827	134
	平成29年度									0					512	63
⑪ 権利擁護	平成28年度	5		3		0		0		0	0		5		17	0
	平成29年度	6		7		1		0		0	0		10		24	0
⑫ その他	平成28年度	28		16		0		0		0	0		1		45	
	平成29年度	0		2		1		0		0	0		1		4	0
計	平成28年度	3,043	272	2,669	335	29	1	35	1	0	31	0	324	1	6,131	272
	平成29年度	2,161	196	3,743	409	74	0	50	0	0	62	0	517	5	7,119	643

( )印は内数でピアカウンセリングの実数

②相談支援事業

＜相談支援利用者＞

	実人員	身体障害者	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次機能	その他	計
平成28年度	502	2	0	24	248	5	2	41	1,004
平成29年度	686	11	0	14	574	11	20	56	1,372

※障害分類は、重複障害者をそれぞれの障害ごと記載しているため、実人員との合計に差異がでる。

＜支援方法＞

	訪問	来所相談	同行	電話相談	メール	支援会議	関係機関	その他	計
平成28年度	53	300	31	932	0	24	2,421	2	3,763
平成29年度	70	444	24	2,069	0	31	344	6	2,988

＜支援内容＞

	福祉サービス	障害症状	健康医療	不安解消	保育教育	家族・人間関係	家計経済	生活技術	就労支援	社会余暇	権利擁護	その他	計
平成28年度	444(4)	90(2)	333(2)	213(1)	9	192(3)	22	135(1)	171(9)	37	5	2	1,653(22)
平成29年度	765(39)	84(1)	472(8)	405	2	396(9)	43	259(11)	466(43)	87(2)	6	2	2,987(49)

( )印は内数でピアカウンセリングの実数

③ケース支援連携先

公的機関：静岡市保健所、葵区生活支援課、障害者支援課、保護観察所

医療機関：溝口病院、静岡県立こころの医療センター、静岡日赤病院、さざなみてんかんクリニック、第一駿府病院、木村クリニック、静岡てんかん医療センター、清水駿府病院、日本平病院

就労移行：リタリコワークス、ウエルビー

就労先事業所：静岡マツダ、オアシス、静岡済生会病院、ミツイコーポ、A型（こでまり、さくら、オリーブ、アウル）

支援センター：支援センターおさだ、はーとぱる、びふう、アイリス

相談支援事業所：リライフ、城東相談支援センター、らん、橋本福祉、おさだ、わ、わだつみ

B型作業所：ぱれっと、ALKU、すんぷ、ルアナ

地域包括センター：長尾川包括、麻機千代田包括、城東包括、服織包括、大里

ヘルパーステーション：マミーケアー、地域支援ネットゆう、ピロス、アースサポート、セントはとり、朝日ケアー、リボン

地域包括支援センター：大谷久能、城東、麻機千代田、長尾川、大里中島、城西

その他 ： 地域交流プラザ、市障害者協会、法テラス、SESハウス、しずかぜリーガルオフイス、センターさつき司後見人事務所、山本司法事務所,グランビア大岩

介護事業所 ： アイケア高松、市社協、あさひケア、UDOのくまさん

訪問看護ステーション ： スマイルリラ、有度の里

④就労支援事業

●就労定着支援と事業所連携

A型作業所や一般事業所等、なごやかより支援して就労した利用者様に対して、就労後も引き続き本人への定着支援を行い、事業担当者と支援を強化した。

⑤その他の活動

●家族教室活動

利用者様のご家族を対象にしたグループ活動は、なごやかの活動を理解してもらうとともに心理教育による育成、セルフグループの形成促進を目的に実施。本年度開催全6回で30名の出席者があった。

●団体利用

・支援グループ名	ナイトサークル	9回利用	38名
	若草クラブOB会	16回利用	59名
	レフミン	10回利用	41名
	ワーキングピア	12回利用	77名
	のぞみ会	11回利用	66名
	エーデルワイスの会	11回利用	73名
	バッカス	2回利用	20名
精神障害者フットサル推進する会			9名
		計	383名

●ボランティア活動

・古切手整理　　：重度心身障害者施設の収集した古切手の整理　随時実施

・景観ボランティア：エリア周辺の花壇整備　　週２回実施

●地域交流活動

・平成29年4月21日中部地区ソフトボール大会、平成29年5月18日・19日フットサル東海大会

・平成29年11月11日地域交流祭り（市民来所 535 名）、３支援センター将棋、オセロ交流会（平成30年1月13日）　参加者　25 名

・平成30年3月17日静岡市こころのバリアフリーイベントにて、将棋、オセロで利用者様８名が交流した。

●関係機関会議

葵区相談支援連絡調整会議、葵区障がい者福祉連携会議

静岡障害者自立支援協議会、同協議会生活支援部会、同協議会地域移行支援部会、静岡市障害者相談支援会議、静岡市障害者支援連絡調整会議、３支援センター会議

●協力関係

しずおか精神障害者スポーツ推進協議会、静岡県障害者スポーツ協会

●実習生受け入れ

静岡福祉大学実習学生　１名（平成30年2月26日～平成30年3月17日）

●その他

・JICA 主催、外国保健福祉担当者なごやか見学（平成30年2月19日）タンザニア、ウガンダ、等より 20 名ほど。

・精神看護学の実習として、済生会看護学校、常葉大學健康科学部看護学科の学生を受け入れる。平成 29 年度は、両校あわせて 45 名を、平成29年7月10日～平成29年9月29日までの期間内に実習の受け入れをした。

特定相談支援事業所　リライフ

当事業所は、平成26年11月に精神障害を持つ人の支援を目的とし、特定相談支援事業所として、常勤1名、非常勤1名体制で開設された。平成24年4月より始まった支援の取り組みである計画相談支援を行っている。

計画相談とは

福祉サービス利用を希望するひと（以下、利用者様）から依頼を受け、適切に福祉サービス利用するための援助のことである。

地域で暮らす精神障害を持つ利用者様の今後の生活への希望の聴き取り・自宅訪問を行い、生活環境の確認・ニーズの把握に努め、利用者様と話し合いながら、利用者様の希望する生活の実現に向けてケアプランやサービス等利用計画の作成をしている。また、地域で暮らす利用者様を対象とした支援のみに留まらず、入院治療を受けている利用者様が地域に戻るための支援も行っている。サービス導入後は、関係機関との連絡及び利用者様宅を訪問し、サービス利用について定期的な見直し・モニタリングを行い、適切なサービスの提供がされているかを確認し、安心して地域で暮らすための支援を行っている。

1　平成29年度の動向

平成26年11月より常勤1名、非常勤1名体制で計画相談支援事業を開始した。その後、職員配置に変動があり、平成29年9月より常勤2名体制となった。平成30年1月より常勤1名体制となり、現在に至る。平成28年度は42名の利用者様から計画相談の依頼を受けた。今年度は46名の利用者様から依頼を受け、延べ168名の利用者登録がある。今年度の支援実施状況は、サービス等利用計画案の作成が112件、サービス等利用計画書の作成が111件、モニタリング件数が233件である。昨年度の支援実施状況は、計画案作成94件、サービス等利用計画書87件、モニタリング件数142件と比較すると、全体的な増加が見られる。特にモニタリング件数は142件から233件へと前年度比164%と増加が著しい。サービス種別としては、昨年度に引き続き、居宅家事援助の利用を希望される利用者様の増加が見られ、昨年度の41件に比べ、今年度は72件とほぼ倍増となっており、入院をしない、あるいは短期間の入院により地域に戻り、生活を送る利用者様が増えているものと推測される。

2　平成29年度の総括

平成29年度は一昨年度から引き続き、支援技術の向上、より多くの利用者様への質の伴ったサービスの提供に努めることを目標に掲げた。単身世帯の増加、ご家族様の高齢化、入院治療の短期化が進み、ますます福祉サービスへの需要が高まってきており、障害を持つ方の求めるサービス内容も多様化している。支援技術の向上、質の伴ったサービスを保つことに加え、これまで知る機会のなかったサービスについての知識を得る必要性を感じている。そして、これも引き続きの課題とあるが、特定相談支援事業所のみでは、障害を持つ方たちへの支援を行う力量が不充分であることを痛感している。医療機関、地域包括支援センター、様々なサービス提供機関との良好な協力関係を築き、障害のある方たちが安

心して、地域生活を送ることに貢献していきたい。

3　平成30年度の目標・抱負

平成30年度は昨年度から引き続き、支援技術の向上とより多くの利用者様への質の伴ったサービスの提供を目標に掲げたい。年々、障害を持つ方のご家族様の高齢化、単身生活者の増加が進んでいる。ちょっとした家族関係の均衡の崩れにより障害を持つ方の生活が一変する場面を幾度か見る機会があった。入院治療の短期化が進み、ますます、福祉サービスの需要が高まってきていること、求められるサービス内容が多様化していることを肌で感じることも多かった。支援技術の向上、質の伴ったサービスを保つことに加え、これまで触れる機会のなかったサービスについての知識を得る必要性を感じている。そして、これも引き続きの課題であるが、特定相談支援事業所のみでは、障害を持つ方たちへの支援を行う力量が不充分であることを痛感している。医療機関、地域生活支援センター、地域包括支援センター、様々なサービス提供機関との良好な協力関係を築き、障害のある方々が安心して、地域生活を送ることにより貢献していくことを目指していきたい。

○支援実施状況及び内訳

【サービス種別内訳】

	サービス等利用計画案	就労移行支援	就労継続支援A型	就労継続支援B型	居宅家事援助	短期入所	共同生活援助体験	共同生活援助	生活介護	生活訓練	機能訓練
平成29年4月	7	0	2	1	4	0	0	0	1	0	0
5月	12	1	0	3	8	0	0	1	0	0	0
6月	9	5	2	4	0	0	0	0	0	0	0
7月	6	1	0	1	4	1	0	0	1	0	1
8月	9	0	1	0	0	9	0	0	0	0	0
9月	11	1	1	1	8	0	0	0	0	0	0
10月	13	2	0	3	8	0	1	2	0	0	0
11月	11	1	3	0	7	0	0	0	0	0	1
12月	9	1	0	1	7	0	0	0	0	1	0
平成30年1月	9	1	0	1	7	0	0	0	0	1	0
2月	12	1	3	6	5	1	0	1	0	0	0
3月	4	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0
合計	112	14	15	21	59	11	1	4	2	2	2

	サービス等利用計画	就労移行支援	就労継続支援A型	就労継続支援B型	居宅家事援助	短期入所	共同生活援助体験	共同生活援助	生活介護	生活訓練	機能訓練
平成29年4月	5	1	2	0	2	0	0	0	0	0	0
5月	6	0	2	1	3	0	1	0	0	0	0
6月	13	1	1	3	8	0	0	0	1	0	0
7月	10	0	1	5	6	0	0	0	0	1	0
8月	5	1	0	1	4	0	0	0	0	0	0
9月	6	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0
10月	13	1	1	1	10	1	0	0	2	0	0
11月	11	2	0	2	7	1	0	0	2	0	0
12月	12	1	3	0	7	0	0	0	0	1	0
平成30年1月	9	1	0	2	7	0	0	0	0	0	0
2月	8	1	0	2	6	0	0	0	0	1	0
3月	13	1	2	6	6	0	1	1	0	0	0
合計	111	10	12	23	72	2	2	1	5	3	0

	モニタリング	就労移行支援	就労継続支援A型	就労継続支援B型	居宅家事援助	短期入所	共同生活援助体験	共同生活援助	生活介護	生活訓練	機能訓練
平成29年4月	13	3	2	2	5	1	0	0	1	0	0
5月	19	1	4	5	8	0	1	0	0	0	1
6月	16	1	4	4	9	0	0	0	0	0	0
7月	19	3	4	5	7	0	0	1	0	0	1
8月	20	3	3	5	11	1	0	1	0	0	0
9月	14	2	2	2	9	0	0	0	0	0	0
10月	21	3	3	3	11	1	0	0	2	0	0
11月	26	2	4	4	16	0	0	0	0	0	0
12月	28	1	6	7	15	0	0	0	0	0	0
平成30年1月	23	1	5	6	10	0	1	1	1	1	0
2月	17	3	4	8	8	1	0	1	0	0	0
3月	17	0	5	3	10	0	0	0	0	0	0
合計	233	23	46	54	119	4	2	4	4	1	2

*注　同時に複数のサービスを利用する場合、または実際にはサービス利用に至らない場合があるため、必ずしもサービス種別内訳の合計と支援実施件数は一致しない。

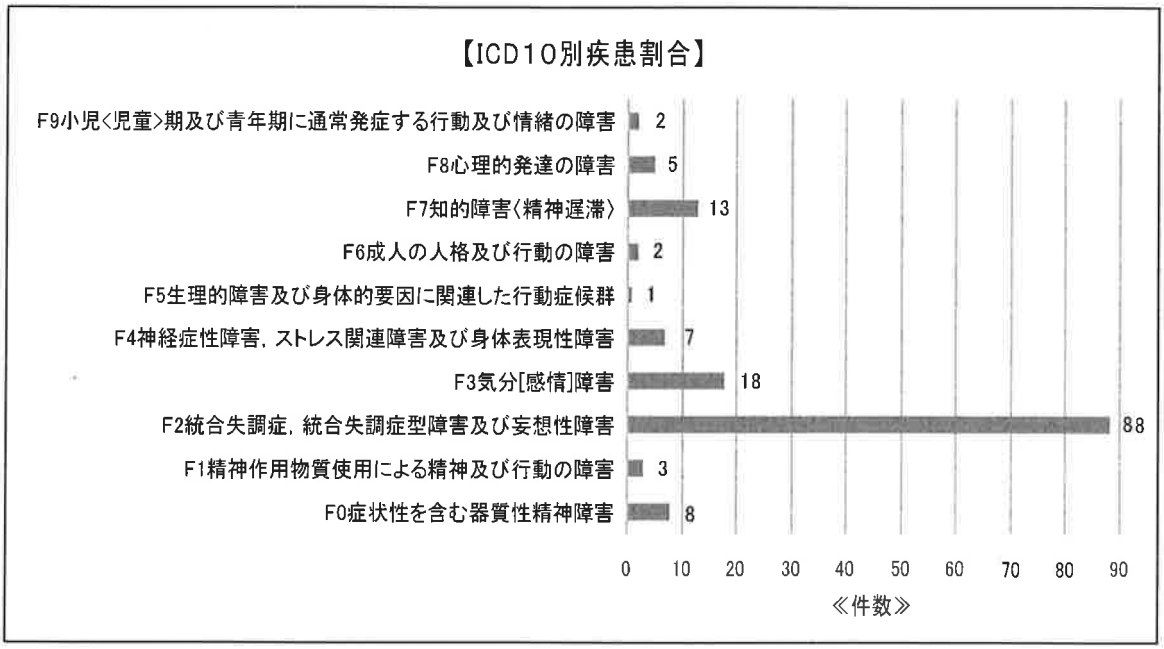
訪問看護ステーション　スマイルリラ

「基本理念」

住み慣れた地域でその人らしく自由に生き生きと生活していくことを支え、見守り、共に考え続けます。

「看護方針」

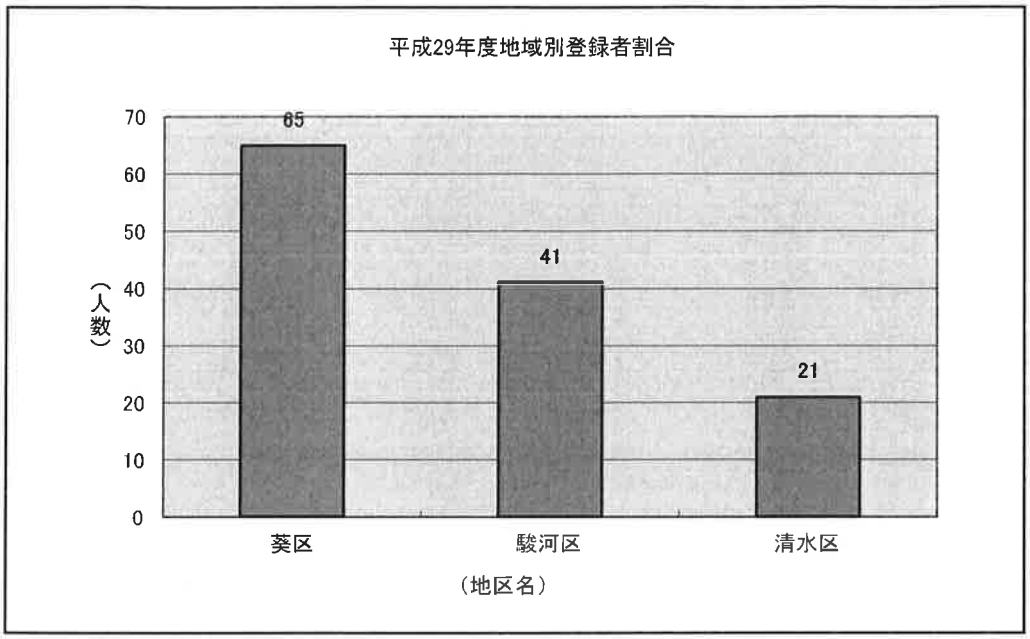
(1) 安心・信頼関係のもと利用者の自己決定を支援します
(2) 利用者１人ひとりの思いを尊重し、個々の強みを活かした支援を提供します
(3) 看護師・作業療法士・精神保健福祉士など専門性を活かしたチームで支援します
(4) 医療・保健・福祉など、地域の様々な関係機関と連携して適切な支援を提供します
(5) 専門職として知識と技術の向上に努め、人とのつながりを大切にします



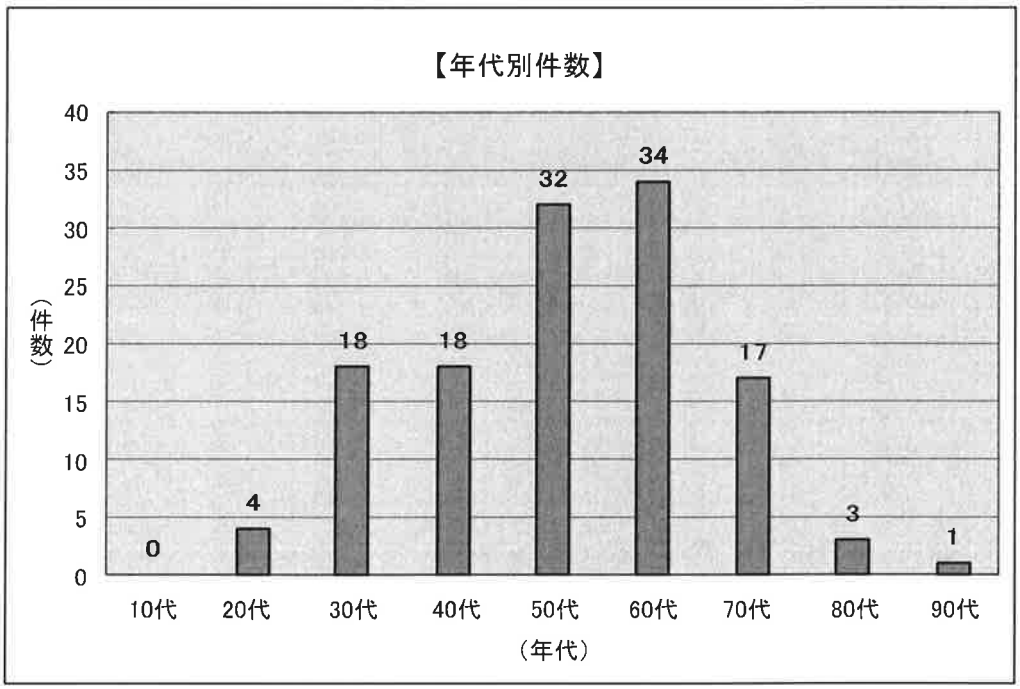
≪利用者様の統計データ考察≫

当ステーション利用者様においてはICD10における「F2」のカテゴリーの利用者様が60%と最も多い。これはかつて「F2」圏内の社会的入院者様が多くみられ、それらの利用者様が訪問看護を利用する事で退院促進につながり、現在でも訪問看護を利用し、地域で生活する事ができているデータでもある。又、地域で生活するにあたって、単身一人暮らしの開始や日中活動における生活の変化等にて再入院され、その後再度訪問看護を利用するという利用者様も多くみられた。更に今後は「F0」圏内の利用者様の増加が予想される。

認知症に伴うBPSDの症状等により、認知症疾患医療センター経由にて、①各医療機関②地域のケアマネ③地域包括支援センターなどから、訪問看護への依頼があると思われる。

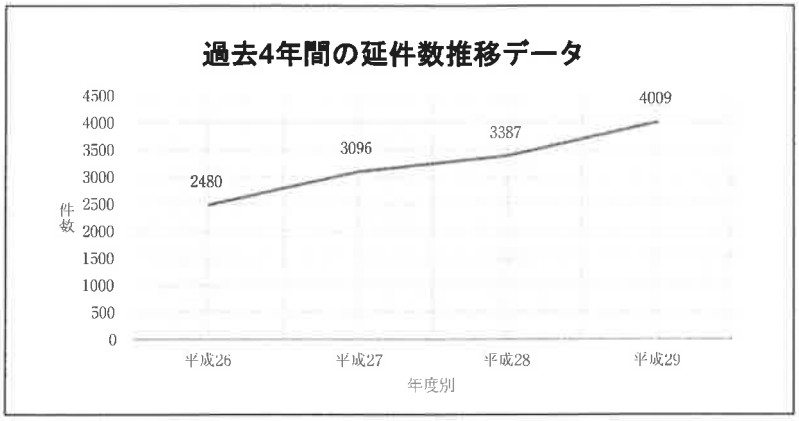


地域別利用者割合では特徴として、清水区の分布において、地図上国道1号線沿いの割合の比重が高く、逆に150号線沿い、南幹線沿いのエリアの利用者様が少ない点が特徴である。これは溝口病院以外の医療機関に通院している利用者様が多く分布されているのではないかと推察される。この分布は昨年度と変わらない特徴の一つである。



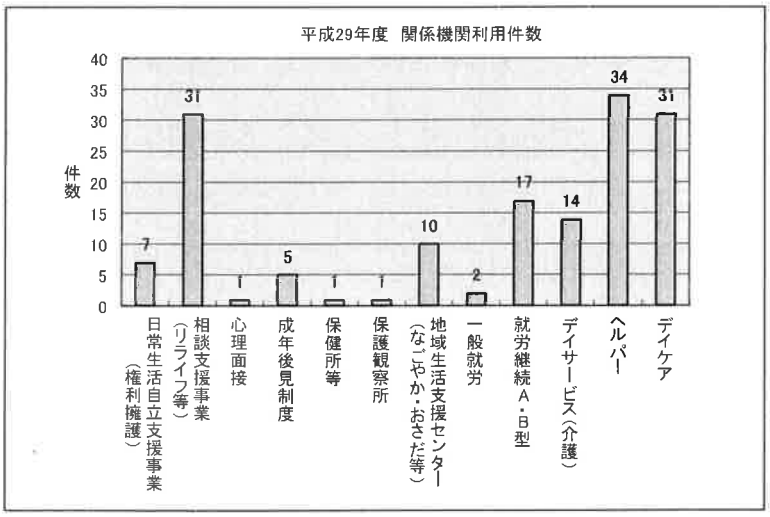
年代別件数の割合は50～60代の利用者様が多い。特徴として50～60代で独居、又は同居されているご家族様（親御様）が高齢になっている点である。ご家族様自体のサポート力が低下し、服薬支援・家事援助が困難になってきている。また、独居の利用者様もADLの低下や合併症の併発で、介護保険サービスへ移行するなど、第三者のサポートが

必要なケースが増加傾向にある。ご家族様にも介護保険サービスが適用されるケースもあるため、その利用者様のみならず、ご家族様の担当ケアマネージャーや、ホームヘルプサービス事業者とも連携していく必要がある。



延件数推移においては昨年度と比較して増加傾向にある。これは各利用者様の訪問看護における定着率の増加が関係していると思われる。キャンセルをされる方の減少や、また傾向として週に1度の訪問が、処置等により複数回訪問している場合や、訪問日が祝祭日等にあたる場合に訪問日を変更した事での件数の増加に繋がったものと推察される。

入院に至るケースも定期訪問で早期発見・早期治療につなげる事で長期間入院が避けられ、訪問を再開できる事も平成29年度の件数に反映されているのではないだろうか。それらは今後も訪問看護の重要な役割として担っていきたい。



関係機関利用件数については、日中活動の場としてデイケア、ヘルパーの利用が多くなっている。これは昨年と同様の傾向だが、利用者様の高齢化に伴い介護保険申請するも介護度1、支援等の認定を受けた利用者様がデイサービスの利用ではなく、デイケアの利用継続、併用に至っていると思われる。

また、相談支援事業も認知度が上がり、細かいケアプランの立案の為に利用される方々が増加している。ヘルパーとの連携、援助の細かい内容、利用者様のエンパワーメントに今後も密に連携を取りたい。

1　平成29年度の目標についての取り組みと考察

(1) 医療機関とのスムーズな連携（導入，情報共有，地域移行，定着等）の強化

昨年度に比べると、導入、情報共有という部分ではスムーズに進めた部分がある。特に再入院、入退院を繰り返している利用者様においては入院直後に申し送りを実施し、入院時アセスメント箇所の確認、改善したい部分を医療機関スタッフと共有化する事が出来た。また、外来の利用者様においても担当PSWを設定してもらい、よりスムーズかつ、タイムリーに情報のやり取りを実施することが可能となった。なお、入院含めた受診依頼の対応マニュアルを病院PSWと協議して作成し、お互い持ち合せる事で動きの統一化を図ることがより可能となった。

ただし、地域移行定着等の部分ではまだ課題が残る。入院中におけるアセスメントは行うが、それが具体的な支援プランになっておらず、レスパイト入院になっている場合や、特に長期入院者様における服薬支援など本人の病態水準、支援する時期など個別性を発揮すれば再入院を防止することができ、外来での生活継続が可能になった利用者様もうかがえた。

(2) 最新の必要な福祉制度サービス、介護保険制度法令の理解を深める

地域生活支援事業における、移動支援事業の活用、地域生活体験支援事業などスタッフによっては初めて携わる事業もあり、それらにおいても上述した相談支援事業所と協力し、事業所の選定、機能の確認など経験値、知識量を高めることに繋がった。また、サービス付き高齢者住宅に移行する可能性のある利用者様もおり、学ぶべき機会の多い年度であった。

今後も介護保険を併用する利用者様も多くなるため、タイムリーな情報収集をする必要がある。

(3) 医療機関、関係機関等への広報活動（利用者数の増加、ステーションの機能の理解、認識を高めてもらう）

平成29年度は利用者様の分布として、溝口病院の利用者様が大多数を占め、他の医療機関は平成28年度と変わらない状況だった。地域包括支援センターの担当者、介護保険関係、ヘルパー事業所、生活支援課など認知はされてきているが、更に市内中心に精神科クリニックへのアナウンスなど、当ステーションの機能、特徴等理解してもらう必要があると思われる。

(4) 各種勉強会・研修会への積極参加

外部研修では、精神科訪問看護フォローアップ研修等を受講した。日々の業務を調整したが、受講件数としては低調であった。介護保険関係、身体、高齢者、ターミナルケア等様々な研修会がある為、平成30年度は各スタッフのスキルアップの為、積極的な参加ができる体制を構築したい。

2　平成29年度の目標の評価・総括

平成29年度を総括すると、実行できた部分と未達成の部分とが混在した年度であった。医療機関との関係では、スムーズな受け入れ、適切な支援体制という部分ではマニュアルを書式化し、より連携を図れる様になったが、退院がスタートであり、それらに伴う生活障害を共有し、入院時から実践し成功モデルケースを作り上げるまでは至らなかった。それらは当方からの発信力が更に必要であると思われた。尚、地域定着という視点でも服薬指導、本人の取り巻く環境整備、障害程度等のチームを上げてのモニタリングが欠けていたと思われる。それが故に再入院がより早くなってしまったケースもあった。それらの反省を踏まえ、次年度に生かしたい。

ただし、部署内においては処遇困難ケース、支援内容の見直しのケースなどタイムリーにミーティング等でお互い意見交換を行うことができた。担当者という枠ではなく、多職種の職場という利点を生かし、どの様にアプローチすればいいのか等、協議できたと思う。認知症の利用者様の増加に伴い、BPSDの対応のみならず、ご家族への心理教育、身体の処置、ケア等今まで以上に実施すべき事が多くなってくる。また、地域包括支援センター、ケアマネージャーとも更に連携が求められる。介護保険の制度においても最新情報へのアンテナを張っていなければ、適切な支援が提供できない。

各関係機関への広報活動は、当ステーションの特徴をより、理解・認識してもらう活動が不十分であった。今後どの様な対象者に支援していけばよいか、事業所としてのビジョンを明確にし、広報活動していくことが求められる。次年度開所予定の「へいわ出張所」を、どのように活用していくのか等、広報活動においても協議していきたい。上記のことを踏まえ下記の目標を掲げる。

3　平成30年度の目標および抱負

(1) 医療機関とのスムーズな連携の統一化と強化（導入・情報共有・地域移行・定着）
(2) スタッフ間の連携を高め、利用者への接遇への向上に努める（ミーティングの活用）
(3) 医療機関、関係機関などへの広報活動（サテライトへいわの運用と活用）
(4) 各種勉強会・研修会への積極的参加と勉強会の実施
（最新の必要な福祉制度サービス・介護保険制度等法令の理解を深める）

外部団体役職及び協力

〔医局〕

溝口　明範

静岡県医療審議会　委員
静岡県精神科救急医療システム連絡調整委員会　委員長
静岡市精神医療審査会　委員
静岡市精神障害者保健福祉手帳及び自立支援医療費支給認定判定会　委員
静岡市認知症対策推進協議会　委員
公益社団法人日本精神科病院協会　監事
静岡県精神科病院協会　会長
静岡県精神保健福祉協会　副会長
公益社団法人静岡県病院協会　中部支部理事
更正保護法人静岡県更正保護協会　理事
更正保護法人少年の家　理事長
一般財団法人社会保険協会静岡支部　副支部長
一般財団法人静岡県社会保険協会　理事
全国健康保険協会静岡支部　保険給付審査医師
静岡保護司選考会　委員
医療観察法倫理会議　委員
全国精神医療審査会連絡協議会　会員
静岡南警察署被害者支援連絡協議会　副会長
静岡医療観察制度運営連絡協議会　委員

西村　勉

静岡産業保険総合支援センター　相談員
国民年金および特別障害給付金　障害認定審査医員
高齢者の医療の確保に関する法律による障害認定審査委員
静岡市保健所　精神保健相談医
静岡市役所保健室　精神保健カウンセラー
静岡市教育委員会　精神保健カウンセラー
静岡市職員健康審査会　委員
静岡県立大学　非常勤講師
常葉学園大学教育学部　非常勤講師
静岡福祉大学　非常勤講師
ＮＰＯ法人ウイングハート　理事
ＮＰＯ法人てのひら　理事

寺田　修

静岡市精神保健福祉審議会　委員

静岡市障害程度区分認定等審査会　委員

静岡市障害者自立支援協議会地域移行支援部会　委員

高橋　哲

最高裁判所診療所　非常勤医師

青島　多津子

静岡市保健所　精神保健相談医

静岡地方裁判所　精神保健審判員

法務省保護局　保護観察官高等科研修講師

静岡保護観察所アドバイザリースタッフ

江戸川大学　非常勤講師

国立きぬ川学院　非常勤医師

子どもの虹情報研修センター　児童福祉施設指導者合同研修　講師

小長井　大輔

静岡 DPAT 連絡協議会　委員

静岡市水道局　産業医

静岡市葵区役所　メンタルヘルス相談員

NOK 株式会社東海事業所　産業医

高橋　一平

弘前大学　ＣＯＩ拠点アドバイザリーボード　委員

日本年金機構静岡年金事務所　産業医

日本年金機構静岡事務センター　産業医

弘前大学　学部長講師

〔薬局〕

下山　俊明

静岡県病院薬剤師会　監事

〔看護部〕

大石　和樹

静岡市障害者自立支援協議会地域移行支援部会　委員

〔社会復帰部〕

望月　信吾

静岡県精神保健福祉士協会　理事

静岡市介護保険認定審査会　委員

静岡市障害者自立支援協議会地域移行支援部会　委員

静岡市精神障害者地域移行支援ワーキンググループ長

静岡市立静岡看護専門学校　非常勤講師

大鹿　愛子

静岡市介護保険認定審査会　委員

田中　幸子

静岡県精神保健福祉士協会　中部ブロック協力員

山本　晃弘

しずおか精神障害者スポーツ推進協議会　中部地区代表

静岡県作業療法士会　広報部員

静岡県作業療法士会　地域活動推進部精神障害ワーキンググループ会議　委員

静岡県自立支援協議会地域移行部会研修ワーキンググループ　委員

静岡市障害者自立支援協議会地域移行支援部会　委員

静岡市精神障害者地域移行支援ワーキンググループ　委員

澤谷　加奈子

静岡県作業療法士会　学術部員

〔事務部〕

溝口　直毅

社会福祉法人明光会　評議員

井口　啓

静岡県精神科病院協会　事務局長

静岡県精神保健福祉協会　運営委員

〔なごやか〕

奥村　敦毅

静岡市社会福祉協議会　評議員

静岡市障害者自立支援協議会地域移行支援部会　委員

NPO 法人てのひら　理事

渡邊　博美

静岡市障害者自立支援協議会地域生活支援部会（地域生活支援拠点等プロジェクトチーム）　委員
静岡市障害者自立支援協議会地域移行支援部会ワーキンググループ　委員
静岡市障害者相談支援事務局連絡調整会議　委員

石川　裕己

しずおか精神障害者スポーツ推進協議会　理事
静岡市介護保険認定審査会　委員
静岡県精神保健福祉士協会　中部ブロック協力員

朝日　友紀

静岡市日常生活自立支援事業契約締結審査会　委員
静岡市障害者自立支援協議会地域移行支援部会ワーキンググループ　委員
静岡市障害者相談支援事務局連絡調整会議　委員

金丸　充良

静岡市障害者自立支援協議会地域移行支援部会ワーキンググループ　委員